

今 当院が求めている人材人物

- 一、修行僧のようなお坊さん
- 一、システムエンジニア
- 一、大工(職人)仕事ができる器用な人
- 一、筆耕(書家)
- 一、葬儀社勤務の経験者
- 一、ものづくりが好きな職人(技術者)
- 一、資格を複数持っている人
- 一、ラガーマンのような突破力があって何事にも挑戦できる人
- 一、料理が得意な人
- 一、企画運営力のあるアイデアマン

* これからの時代はどんな職場 企業でも多角化と多様化を備えて対応することが重要だと思います。そのためには優秀な人材の確保は極めて慎重かつ大胆に進めていくべき事案です。私は本当に一芸に秀でていれば年齢は不問という認識でいます。また周囲の声に動揺しない逞しく澆刺とした人を重用するつもりです。孔子によれば「真の善人とは十人いれば五人に褒められ残りの五人からは貶される人だ」という。特に高齢者の意見は微妙です。本当に実力と実績と実徳を備えた人の意見だけを耳にしていればよいと思います。

人生は短い。光陰矢のごとしという。ひたむきな人生を生きていたずらに時を過ごさずつまらない人たちとは群れたくない。今何とかなっている人たちを見ると必死になってやってきた者たちです。何かのことに人生すべてをかけて取り組むこと。道を拓く。人生とは与えたものしか返って来ない。投じたものしか益なし。やってきたことしか得られません。後半の人生こそ勝負です。正直です。人生の価値とは修羅場の数に比例する。修羅場を多く経験した人には敵いません。

その人が生きてきたすべての結果がそこにある。そんな人を求めます。

合掌
令和4年3月9日
見性院住職

『論語 子路篇』の書き下し文と現代語訳 ※

[白文] 24. 子貢問曰、郷人皆好之何如、子曰、未可也、郷人皆悪之何如
子曰、未可也、不如郷人之善者好之、其不善者悪之也、

[書き下し文] 子貢問いて曰く、郷人皆これを好まば何如（いかん）、
子曰く、未だ可ならざるなり。郷人皆これを悪まば（にくまば）何如。
子曰く、未だ可ならざるなり。郷人の善き者これを好み、その善からざる者
これを悪むに如かざるなり。

[口語訳] 子貢が質問して言った。『郷里の人がみんな人を褒める人物なら
どうでしょうか。』。先生が言われた。『まだ十分ではない。』。
子貢が言った。『郷里の人がみんな人を嫌う人物ならどうでしょうか。』。
先生が言われた。『まだ十分ではない。郷里の人の中で、善人に好かれ悪人
に嫌われるというのが一番である。』。

[解説] 孔子はすべての人から褒められることを十分でないとし、すべての人
から嫌われるのも良くないとしたが、人間関係の中でも是々非々を明らか
にするために善人に好かれ悪人から嫌われる境地を目指したのである。

※ 引用 『論語 子路篇』の書き下し文と現代語訳：3

https://esdiscovery.jp/knowledge/classic/rongo013_3.html